

令和7年度学校経営計画

令和7年度～令和9年度

校番	199	学校名	広島県尾道南高等学校	校長氏名	浅藤 直幸	定時制	本校
----	-----	-----	------------	------	-------	-----	----

1 教育目標

建学の精神である「明明徳」を継承し、常に自分を磨き、自分の誇りとアイデンティティーを確立するとともに、母校を愛し、地域社会に貢献できる人材を育成します。

2 育てたい生徒像

- (1) 基礎的、基本的な知識、技能そしてマナーを身につけている生徒
- (2) 他者と協働し、社会の中で逞しく生きる力を身につけている生徒

3 中期(3年間)経営目標 ※教育活動その他学校運営に関する目標

- (1) 授業改善を行い、社会で逞しく生きる力を養成する。
- (2) 学校行事や生徒会活動に主体的に取り組む生徒を育成する。
- (3) 地域に信頼され、社会に開かれた学校づくりを推進する。

4 短期(本年度)経営目標及び行動計画等 ※中期経営目標を達成するための本年度の経営目標及び行動計画等

短 期 (本年度)経 営目標	本年度行動計画	評価指標	現状値	目標
個別最適な学びと協働的な学びによる 社会的・職業的自立の実現	【総務・保健】 ホームページを本校生徒、保護者が閲覧しやすくなるようなコンテンツを増やすことで、本校の教育活動を保護者へ発信し、理解を深めるとともに、生徒の自己肯定感を高める。	本校の学習活動や作品を紹介するコンテンツの更新回数 (学級通信、授業作品)	25 回	30 回
	【総務・保健】 様々な学校行事への参加率を高め、さらに、自分から行事へ参加していく態度を育てる。	生活改善アンケートでの、「行事の準備への参加」「行事への参加」の項目で、自分で考えて行動した生徒の割合	43.1%	50%
	【生徒支援】 対話を重ねることにより、生徒が充実した学校生活が送れるよう援助する。	生徒の学校充実度(肯定的評価)	89%	90%
	【生徒支援】 生徒会行事を中心とした活動を生徒が企画・参加することにより主体性や協調性を身に付ける。	生徒会行事の満足度(肯定的評価)	98%	90%以上
	【教務】 授業のルールを確立し、生徒の授業への出席を定着させる。	生徒の授業出席率	80%	82%
	【教務】 「一人もおいていかない授業」へ向けて、個別最適な学びを進める授業改善を計画し実施する。	生徒の授業満足度	95%	96%
	【進路支援】 自己理解・他者理解を深め、社会の中での自分の在り方(生き方)を考えさせる取組や支援を行う。	キャリア教育関係の取組(総合的な探究の時間)について、振り返りにおける肯定的評価の割合	95%	97%
	【進路支援】 卒業後の社会的・職業的自立に向けて、職業選択や自己決定に関わる能力を育成する。	将来のことを考え始めたり、調べたり、家族や教員に相談したりしている生徒の割合	42%	45%

	本年度行動計画	評価指標	現状値	目標値
働き方改革を推進する	生徒と向き合う時間を確保する	生徒と向き合う時間が確保されていると感じる教員の割合	90.9%	100%

現状分析

外部環境分析 内部環境分析	機会 (Opportunity)	脅威 (Threat)
	○支援・キャリア教育面における同窓会や外部機関と連携がとれる。 ○尾道市、尾道市教育委員会からの協力を得ることができる。	○教育予算が潤沢にない。 ○市教委をのぞく行政機関との連携が困難。
強み (Strength)	強みを積極的にチャンスに生かすために	強みを生かして脅威を回避するために
○支援員の先生が配置されている。 ○小規模校であるため、すべての生徒に目が行き届く。 ○尾道市教育委員会の支援が手厚い。 ○カリキュラムマネジメントを考える上で、自由度が大きい。	○学び直し等、マンツーマン指導が可能。 ○一人一人に焦点を当てた個別最適な教育が可能。 ○学校における課題を市教委と共有できる。 ○学校行事や生徒会行事など抜本的な改革が可能。	○ハローワーク等関係機関との連携や計画的な企業訪問を行い、求人開拓や雇用拡大に努める。 ○ホームページ、学校だよりの改善を図るなどの広報活動を強化し、本校の活動を広く理解してもらう。 ○軸足を市の教育委員会に移し、協力的関係を持続する。 ○学校運営協議会の発足で地域との連携を密にしていく。
弱み (Weakness)	チャンスを生かして弱みを改善するために	弱みと脅威で最悪状況に陥らないために
○教育予算が充分でない。(学校予算が市費でまかなわれるため、県ほど潤沢にない) ○生徒が心を開くのに時間がかかる。 ○保護者の協力が得にくい。	○中高連携を密に行い、セーフティーネットであることをアピールしていく。 ○市教委や同窓会との連携を密にし、物のない分、人のつながりを強固にする。 ○地域との連携を図っていく。 ○人に慣れる活動から入り、昼間の時間帯をアルバイトにつなげるなど社会との接点をもたすことができる。	○尾道市教育委員会との連携を密に行う。 ○対話を重視し、個別最適な教育活動を徹底する。 ○学校運営協議会の活性化。 ○積極的に予算交渉を行う。